

大雪山国立公園表大雪地域山岳関係者による春季情報交換会 概要

日時：平成 28 年 6 月 3 日（金）

13:30～16:00

場所：美瑛町「四季の情報館」

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所

- ・本情報交換会は、広大な大雪山で誰がどこでどのような活動をしているのか相互に共有することを目的として、平成 24 年度から開始して早 4 年が経過。各団体の概要は相互につかめると考えられるので、情報交換の場としての意味がより重要になると考えられるので、気軽に話をできる雰囲気を大切にしたい旨挨拶。
- ・また、議事概要については出席者に確認いただいた上で、ホームページで公開したいことと、傍聴者（北海道新聞記者、北海道大学大学院学生）がいることを説明。

3. 情報交換

（1）各団体からの報告

各団体から、今年度の活動予定について資料に沿って説明があった。資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は下記のとおり。

■上川中部森林管理署

- ・国有林の中にはレクリエーションの森として区分されたものがあるが、その管理をより適正に行うよう指摘を受けたところ。国立公園内にもレクリエーションに関する施設や登山道があるが、今後どのように管理すべきか、関係市町、環境省、北海道、ご利用されている関係者のご意見を伺いながら、森林管理局・森林管理署として検討したいと考えているので、ご協力をお願いしたい。
- ・6 月 15 日から 10 月 17 日まで、グリーンサポートスタッフを 4 名雇用して、黒岳、赤岳、緑岳周辺で、重点的に巡視及び普及啓発活動を実施する予定。

■上川南部森林管理署

- ・6 月 1 日から 9 月 30 日まで、グリーンサポートスタッフを 1 名雇用し、十勝岳、原始ヶ原方面の登山道巡視や、登山者に対する啓蒙活動を実施している。

■上川総合振興局環境生活課

- ・昨年 8 月上旬、愛山溪のイズミノ沢にかかっている橋がゲリラ豪雨で流されてしまったため、その橋の据え直しをする予定。山岳関係者の協力を得て 6 月中旬から後半に作業を行いたい。

■上川総合振興局南部森林室

- ・勇駒別の高山植物園の冬囲いを 6 月 8 日(水)に外して観覧できるようになるので、是非立ち寄ってもらいたい。

■美瑛町

- ・現在、望岳台に火山対策のシェルターを建設中のため駐車場が半分の広さしか使えないがご了承頂きたい。
- ・望岳台トイレは、6月10日(金)に運用を開始し、10月16日(日)に閉鎖する予定。

■上富良野町

- ・6月19日(日)に山開き記念登山会を開催予定。
- ・現在、十勝岳温泉登山口から三段山までを通行止めとしているが、今後通行できるようにしたい。
- ・山の日の制定を記念し、山に感謝するという意味で、一般登山者を募り、登山道整備を含む登山のイベントを8月上旬に行う予定。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・層雲峡の白水沢とトムラウシの地熱開発について、一般の人にも広く知ってもらいたい。白水沢については、市民の立場から動物、植物、地質等の調査をできないか検討中。

■大雪山自然学校

- ・5月16日(月)～11月10日(木)まで姿見の池に毎日スタッフを3人常駐させている。分岐にわかりやすい看板があると道迷いが減ることがわかった。看板に英語表記があると良い。
- ・利用者指導として姿見駅で3分間レクチャーをしているが、利用者がレクチャーを受講することでお互いにマナーについて気をつけ合うと実感している。
- ・登山道整備に関しては北海道山岳整備の登山道整備セミナーに参加し、スタッフで姿見で出来ることをやっていく予定。
- ・渡邊悌二先生の外国語インフォメーションの研究をしている生徒を受け入れ、わかりやすいインフォメーションの方法を研究する予定。毎週月曜日にネイチャーレターを発行しているが今年は英語、中国語、ロシア語、タイ語、韓国語を発行予定。
- ・旭岳温泉野営指定地の利用者は1300人～1400人程度、まだ少ないので増やしたい。道内利用者は50%、道外40%、海外10%。

■NPO法人かむい

- ・環境省のグリーンワーカー業務として、スノーモビル乗入れに関するパトロール等を受託した。上川総合振興局による黒岳トイレの汲み取りにも参加。
- ・過去に層雲峡、黒岳、銀泉台、赤岳、高原温泉周辺の自然情報を発信する取組をしていたが、ビジターセンター開館とともに解散した。この取組をしていたメンバーは銀泉台、高原温泉、黒岳、上川の各所に現在もいるので、今後、層雲峡情報を発信したい。

■北海道山岳ガイド協会表大雪地区

- ・北海道山岳ガイド協会は80名の山岳ガイドが所属している。今般、自分(鳥羽氏)が、各地の情報を収集して各ガイドに知らせる大雪山地区連絡調整室の担当になった。何かあれば協力したい。

■北海道山岳整備

- ・近自然工法による登山道整備に取り組んでおり、今年度は黒岳7合目の歩道の整備に協力。
- ・モンベル大雪東川店で10月半ば～11月半ばに登山道整備の報告をかねて写真展を開催したい。写真の提供をお願いすると思うが、協力して欲しい。

■(有)風の便り工房

- ・昨年度、北海道大学の庄司先生等は、高原温泉地区を対象として登山道整備に関する募金に対する考え方を把握するための調査を実施した。この調査の中で実際に募金が集められた。この募金を活用して、本年8月11日の山の日、上川地方の高校の山岳部や各山岳会等に声かけをして登山道の維持管理や補修のための資材運搬を行う予定。
- ・昨年倒れた風倒木の処理を上川総合振興局環境生活課と行う予定で、その下見は近日中に行く予定。

■北海道大学大学院農学研究院

- ・協働型登山道整備に参加される方やパークボランティアの皆さんにどのような目的を持って参加されているのか調査するために6ページ、回答時間15分ほどのアンケート調査をする。アンケートは長いので、ご自宅にお持ち帰り頂き、郵送で返送して頂くことになる。ご協力頂きたい方や団体には個別にご連絡させて頂くので、ご協力よろしくお願ひしたい。

■山のトイレを考える会

- ・美瑛富士における携帯トイレの8月11日の山の日、一般の人に携帯トイレを使ってもらい体験登山会を実施予定。
- ・山のトイレマップを修正予定。配布の要望があれば、連絡いただきたい。

■大雪山国立公園研究者ネットワーク

- ・大雪山国立公園連絡協議会において、大雪山国立公園登山マップの英語版を作成することとしており、その準備をしているが、国土地理院からのデータ使用許可の取得に時間を要している。早めに完成させたい。

■自然公園指導員連絡協議会

- ・自然公園指導員については、昨年度70才以上の指導員が任期満了で退会したため、40名いた指導員が26名となった。

■富良野山岳会

- ・富良野岳原始ヶ原コースのササ刈り、昨年度の秋に風倒木、丸太橋の据え直し予定。
- ・原始ヶ原湿原の複線化している植生復元の取組を支援する予定。

■上川山岳会

- ・黒岳登山道の雪割り、カッティングを予定。高齢者が多く活動が難しいことも課題。

■旭川山岳会

- ・登山道整備に協力依頼があれば応えたい。

(2) 意見交換

■上川自然保護官事務所

- ・現在、全国の国立公園で、協働型の管理運営体制を構築することが課題とされている。大雪山国立公園では、登山道の維持管理体制の構築が課題になると考える。
- ・地元では高齢化により人手や人材が不足する一方で、都市部では山に関心を寄せる若い人も多いと聞き、そうした人たちをいかに巻き込むか、また、技術の習得が課題と思われる。
- ・個人的には、協働型の登山道維持管理に参加する人をコーディネートする体制を民間から資金を得て構築することもできたらよいと思うが、この機会に皆さんのご意見も伺いたい。

■美瑛山岳会

- ・環境省のグリーンワーカー事業に携わり、協働型による登山道整備に関する事務局を実施した経験がある。整備については、応援してくれる人が多く、道内各地の山岳会や札幌から若い人が参加してくれた。また、環境省が開く北海道山岳整備岡崎氏の近自然工法のセミナーに参加し、会員の整備技術は上がり、昔ながらの番線を使わなくなったり、歩きやすくなった。
- ・ただ、整備をする場合には、事前に準備や木材を調達したり、荷上げが必要だったりする。さらに、維持管理も大変なので、実施主体は地元でなければ難しいのではないかと。

■大雪山国立公園研究者ネットワーク

- ・地元は高齢化や人手不足となっているが、地方では登山道整備に参加したい若い人が増えている。マッチングがうまくいかず、誰も登山道整備を行う人がいなくなると手遅れになる。その前に財団のようなものを立ち上げないとならないと思う。今年度中から議論を進める必要があるのではないかと。
- ・例えば、山楽舎BEARツアーでは一般の若い人が参加し、登山道の維持管理を体験できるものもあるようだが、そういったことも積極的に宣伝して欲しい。多くの人を巻き込んでいけたらいいと思う。

■北海道大学大学院農学研究院

- ・黒岳の荷上げに参加した人に対するアンケートでは「登山のついでに登山道整備が出来るならやりたい」という結果もあった。東京の方でも登山道整備を行うツアーもあり、参加する人も増えている。ただし、受け入れるなら保険、技術等の問題があり、どのような体制で行うべきか、議論が必要な段階に来ている。
- ・大雪山国立公園における登山道整備の技術指針改訂版について、現場にも持参して使えるような簡易版を作成して欲しい。

■(有)風の便り工房

- ・昨年度、北海道大学の庄司先生等が登山道の補修や維持管理に関する募金を呼びかけたところ、33万円集まった。また、ヒグマ情報センターの建物の中でレクチャーだけを受けた人と、実際に沼でヒグマについての解説を受けてヒグマを見ることができた人とのアンケート結果を比べると、実際にヒグマを見た人は、満足度が高く、ヒグマに対する印象も良くなっている。上川中学校の生徒が7月21日(木)に大学沼でヒグマ観察にくる予定。このように多様なイベントに協力しているが、これらが若い人を含

め登山道の補修や維持管理に参加してもらうきっかけになると良い。

■北海道山岳整備

- ・協働型の登山道の整備や維持管理についてのシステム作りや民間の事務局は必要。
- ・その際、できる人ができることを行う、その人の得意分野を生かすことが重要。つまり、登山道の整備や維持管理には、企画、段取り、調整、施工、記録、報告、発信という多くの段階があり、それぞれ専門の人がいることが理想的。
- ・整備の技術に関しては、適切に教えることができる人がいないと整備に参加しても、おもしろくない。教える人を養成することが大事で、それは行政が音頭を取って欲しい。一定の水準まで育成するのは難しくないが、その後より多くの現場をこなすことが大事。セミナーではわずかなことしか教えることができないし、樹林帯・泥濘地・風衝地と場所によってやり方も変わる。シーズンを通して仕事をしないと無理なので、仕事として整備を実施する機会を増やすことが必要。

■上富良野町産業振興課

- ・8月28日(日)十勝岳ヒルクライムがあり、上富良野町から道道291号線～十勝岳温泉登山口までが通行止めとなる予定。

■富良野山岳会

- ・富良野山岳会は以前から、富良野岳、芦別岳新道、夕張岳金山コースの登山道整備をしている。これらは富良野市から委託を受け、労働に対する対価を得て行われている。対価を得ることが中途半端な気持ちではできないという気持ちになる。
- ・何もかもボランティアで行うというのは無理があるのではないか。富良野山岳会は昭和2年から活動しているが、行政と山岳会が、このような形できちんと連携していれば問題ないと思う。

4. 閉会

■上川自然保護官事務所

- ・今日の情報交換を元に連携がより一層なされることを期待。各団体とも、登山道や山の課題等考えながら今シーズン活動して頂き、秋の意見交換会を開催したい。秋の意見交換会では例年同様、山域毎に分かれて今シーズンの課題等を議論したいと考えている。